

令和4年度 第2回生駒市行政改革推進委員会分科会① 会議録

開催日時 令和4年11月14日(月) 午前10時～午前12時

開催場所 生駒市役所 401会議室

出席者

(委員) 森会長、稲山委員、森岡委員、新子委員

(事務局) 知浦行政経営課長、岡田行政経営課課長補佐、島田行政経営課同係主任

(傍聴者) なし

1 開会

(事務局) 本日の案件は、「前期行動計画の取組状況の確認について」である。

2 案件

「前期行動計画の取組状況の確認について」

(会長) 担当課が作成した取組状況評価シートをもとに、各取組内容についての総合評価を決定していく。

No.7 ふるさと生駒応援寄附等を活用した寄附の促進

(委員) チラシの下半分を振込用紙にして市民に配布していたと思うが、効果はあったのか。

(事務局) チラシによる寄附金額のみを抽出して集計していないので、効果は分からない。

(委員長) C評価とした根拠は何か。

(事務局) その他の寄附は上昇しているが、メインの取組みであるふるさと納税の実績が前年度より下回ったためである。

(委員長) 目標を達成していることからB評価でも良いが、自己評価でC評価としているのであれば、C評価で良いか。

(委員) もともと生駒市民が他市にふるさと納税していることによる市税の流出が大きいので、その目減りを補うためにもふるさと納税に力を入れる必要がある。そういう意味では、市外への流出金額が減少しているのであれば良いが、そうでないならC評価だろう。

(委員) どれぐらい支出が多いのか。

(事務局) 令和3年度は約4億円が市外へ流出している。そのうち1億円をふるさと納税で賄うことを目標に取り組んでいる。総務省は、ふるさとに愛着を持ってもらい寄附してもらうことが本来の目的であり、返礼品の競争となっていることは好ましくないとやっている。

(委員長) C評価でよろしいか。制度がある限りは成果が上がるように努力してほしい。

(各委員) 了承

No.8 歳入増につながる施策の創出、強化

(委員) 広告事業収入を上げるためには、駅で乗り降りする人を増やすことが必要である。し

かし、生駒は住宅都市なので、わざわざ降りる人が少ない。それをどのように上げていくかということも、広告事業収入の増収につながっていくと思う。

(委員長) 単体で見てもいけないという意見は前回もあった。どういう業者が広告を出しているのか。

(事務局) 市内の病院や弁護士事務所、住宅販売会社等である。

(委員) マーケットが小さいが、小さい中では頑張っていると思う。

(委員長) ネーミングライツはどのような事業者がしているのか。

(事務局) 現在は体育施設でのみ実施しており、指定管理者がネーミングライツをしてくれている。

(委員長) D評価でよろしいか。

(各委員) 了承

No.23 柔軟で機能的な組織の構築

(委員長) 縦割りの壁は厚いのか。

(事務局) どの所属も忙しい中、時間と人員を割いてもらう必要があるので、難しい部分はあるが、協力的な職員はたくさんいる。

(委員) プロジェクトチームは企画政策課を持っているのか。組織のトップは誰なのか。

(事務局) トップはプロジェクトチームの内容によって変わる。声掛けは企画政策課が行う。

(委員長) 新たにプロジェクトチームをつくりたいという下から上への要望はないのか。

(事務局) 庁内グループウェア検討プロジェクトチームについては、担当課からの要望でつくられたものだと思う。担当課の要望はあるが、プロジェクトチームの創設までいかなかったものもある。それが横連携で実施した3事例である。

(委員) 自治連合会にも様々な要望が上がってくるが、担当課へ直接要望しても聞いてもらえないことが多く、市全体で考えなければ推進そのものが難しい。既設の事業であれば良いが、新規の事業を一担当課に要望してもなかなか前に進まない。その点も踏まえて企画政策課が幅広く市民や担当課からの要望を受け止めてプロジェクトチームを創設するというのもしてほしい。そうすることでプロジェクトチームがより活性化するのではないか。

(委員長) 横連携で実施した3事業はどのようにして把握したのか。

(事務局) 企画政策課に相談があった事例だと思う。事業規模が大きくなりそうなものは、企画政策課にまず話がいくと思うので、小規模な横連携事業については、ここに記載されていないものもあるかもしれない。

(委員長) プロジェクトチームをつくるメリットはあるのか。

(事務局) 担当課が全庁にまたがるものについては、人伝いで助け合いでは難しいので、プロジェクトチームを創設している。

(委員長) 市民の声をきちんと受け止めてほしい。

(委員) 取り組むことが出来たと書いているが、具体的に何をしたのかが分からない。

(委員) 何かをするために集まることは良いが、成果が分からない。政策形成実践研修についてはプロジェクトチームとは言えないのではないかと。成果を出さないといけない。成

果が書かれていないので、評価が難しい。具体的に書かれていないのは成果がなかったと判断せざるを得ない。プロジェクトチームを組むのだから、成果をあげるのは当然のことである。プロジェクトチームに辞令を交付して、意識付けを明確にするのも方法ではないか。

(委員長) 広報紙で庁内の活動を取り上げてくれたら良いのだが。

(委員) 複合型コミュニティづくりプロジェクトチームについても会議を実施しただけでは成果が不明確である。

(委員長) 記載されている内容では成果が不十分なので、D評価で良いか。

(各委員) 了承

No.24 AI や ICT を活用した業務の効率化

(委員長) AI や RPA は推進されていないのか。

(事務局) 令和元年度は RPA、令和 2 年度は AI-OCR を導入している。AI-OCR は手書きの申請書を読み取ることが出来るため作業が楽になっていると思う。RPA についても大量の単純入力作業を自動的に実行してもらえるので、作業量は減ったと考えられる。そういった業務が多い担当課に導入していつている。

(委員) 導入費用は高いのか。

(事務局) 高額なので、効果出ることが明確になったものについて導入するようにしている。

(委員) 高額だが応用が利かないシステムを導入してしまっていないか。1つ制度が変わるとまた費用を掛けてシステムを改修しなければならないといったことになっていないか。自治体が AI や ICT を活用する可能性はたくさんあると思うが、事業者の意見を鵜呑みにするのではなく職員自身が積極的に考えてほしい。

(委員長) 具体的な成果が分かりにくい。

(委員) 指標からいうと B 評価となるがどうか。

(委員長) 取組内容のレベルが低いのではないか。内容が大したことではない気がする。

(委員) 会社勤めをしていない者でも出来そうなことが目標に掲げられているので C 評価ではないか。

(委員長) C 評価としてよろしいか。

(各委員) 了承

No.21 持続可能でより適正な職員数の管理

(委員) 退職職員数は予定通りの数であったのか。業務辞令発令が柔軟すぎるのではないか。畑違いの部署に異動しがちなのではないか。臨時的に兼務辞令が発令されるのは分かるのだが、職員の特性を把握した上で、適正な職員配置を行うことが大切である。評価の根拠については理解できる。

(委員長) コロナがあったので評価が難しい。

(委員) 適正とは何かという問いには誰も答えられない。今の人数で組織がうまく回っているということが適正な職員数の管理となる。コロナワクチンの接種業務等があつて各課から職員を絞り出して組織をつくるということはどの市でも実施している。それによ

り各担当課の事業が破綻をきたしていないのであれば、組織としてうまく機能したと評価するしかない。

(委員) 800人まで職員を増やす必要があるが、実質は784人であり、16人少ない状態で組織を回していることになる。それでうまく回っているかという点を評価しなければならない。

(委員長) C評価で良いか。

(各委員) 了承

No.22 会計年度任用職員制度への移行に伴う多様な働き方の推進

(委員) 正規職員とほぼ同数の会計年度任用職員の雇用がある。なぜこれだけの人員の雇用があるのかについて、これまで何度となく質問してきたが、いまだ何の説明もない。正規職員は定員に空きがあるのに、会計年度任用職員をたくさん雇用している。減らすのか、まだまだ増員するのかどうするのか。そもそもこれだけの会計年度任用職員を雇用するのは、正規職員の数が少ないからではないか。正規職員数と非正規職員数のあり方を人事課はどう考えているのか。

(委員) 銀行の窓口はアルバイトと聞いている。生駒市でも市民課の窓口は委託している。正規職員数を減らした分だけ会計年度任用職員を雇っていれば意味がないのではないのか。

(委員) もともと職員がしていた業務を会計年度任用職員に任している。同じ業務をしているのであれば、安い賃金である非正規の職員にしてもらうのは良いのか。非正規と正規の仕事をきちんと区分せずに会計年度任用職員の数を増やしてしまっている。その人の生活も考えるべきである。正規職員を減らして、会計年度任用職員で補う方法で良いのかを一度考えてほしい。

(委員長) 会計年度任用職員から正規職員になることはあるのか。

(事務局) 採用試験を受ければ正規職員になることは可能である。実態としては主婦の方が多い。

(委員) 会計年度任用職員であっても、正規職員と同様の業務をしているのであれば、同じ給料にすべきではないか。予算を減らすために、正規職員を減らして会計年度任用職員を増やしているのであれば本末転倒である。保育士などの資格職には正規職員、非正規職員、嘱託職員がいる。全員同じ仕事をしているのになぜこれだけ賃金が違うのか。そこを考えてほしい。

(委員長) 会計年度職員の給料は、人件費と物件費のどちらか。

(事務局) 人件費である。

(委員長) C評価で良いか。

(各委員) 了承

No.25 特定事業主行動計画の推進と人事評価制度の活用

(委員長) 女性職員の割合は高いのか。

(事務局) 民間企業と比較すると高いと思う。

(委員) 女性は家庭の中での主婦としての役割も担っているのが難しい部分がある。家庭を変

えることは難しいので、組織として変わっていく必要がある。

(委員) 女性が管理職になることが大変なのは理解するが、そこは会社が考慮していく必要がある。女性管理職を増やすという方針をとるのであれば、一定年齢が来れば強制的に上げていく必要がある。

(委員) 男女が協力して家事をするように変えていく必要がある。

(委員長) 近代の労働は男性向けである。そのシステムを変えずに女性が参画していくことは難しい。システムをまず変えないと成り立っていない。

(委員) 女性管理職を増やすためには残業を減らす必要がある。そのためにも正規職員をもつと雇ってはどうか。そうやって仕組みを変えていかなければならない。

(委員長) D評価で良いか。

(各委員) 了承

No.26 「人材育成基本方針」に基づく人材育成の推進

(委員長) 意味がある研修なのか。

(事務局) 人材育成基本方針を策定したが、コロナの影響で研修ができていなかったため、今研修をしている。また、V（ビジョン）M（ミッション）V（バリュー）を庁内周知するときにも、各担当課でワークショップをし、各担当課のミッションをつくった。

(委員長) ワークショップをして良かったか。

(事務局) 自分達がしている業務が、何のためにしているのかを明確にするためには良いものである。採用段階においてもVMVを評価基準として選考している。単的にいうと市民のためだが、自分達がしている業務をどのように市民のためにつなげていくかを考える必要がある。

(委員) 日本語で言っていることを英語で言っているだけである。公僕精神なく人材育成しても意味がない。民間企業と同じであれば稼げば良いが、市役所職員ではそういった精神はあり得ない。

(委員長) 自主研究グループが2つ立ち上がったとあるが、予定通りの成果が得られたとまで言えるのか。

(事務局) good morning coffeeは月1回、朝、ロビーで職員にコーヒーを出す活動である。コロナ禍の影響で飲み会等ができなくなり、新規採用職員が人脈を築けないまになっていることが課題になっていた。職員同士の交流を深めるため、挨拶を交わしたり話をしたりする場として実施している。いこマーケットは子ども限定のフリーマーケットで、南都銀行と共催し、フリーマーケットだけで使える通貨をつくり、お買い物ごっこの延長としてお金の勉強にもなるし、リユースという視点でSDGsの勉強にもなる。

(委員) それが人材育成の推進につながっているのか。

(事務局) VMVのうちのV（バリュー）には生駒愛、人間力、変革精神の3点が含まれる。変革精神とは、自分達で課題を見つけて対策をとるという点が含まれるため、課題を見つけ、その課題に共感する職員を集めて事業を実施しているので、VMVに即した取組と言える。

(委員長) C 評価ではないか。人事課は組織の土台をつくる課であり、表に出るべきではない。先ほどのプロジェクトチームと同様に成果が見えにくい。また、人事課が取り組んだ訳ではなく、認めただけである。C 評価で良いか。

(各委員) 了承

No.27 職員採用活動の強化

(委員) 新規職員は非常にやる気があるように感じる。そういった職員が採用されている点は評価できる。しかし、結局しがらみが原因で力を発揮できなければもったいない。ぜひともその期待に応えられるような体制を整えてほしい。

(委員長) 令和元年度の社会人の申込者数はなぜこれほど多いのか。

(事務局) 初めて社会人のプロ採用を実施したことと、転職サイトを活用した求人を実施したことが考えられる。

(委員長) 令和元年度と比較すると申込者数が減っている。

(事務局) 令和元年度は初めての取組であったため、申込者数が多かったのかもしれない。また、他の自治体でも社会人採用が増えていることもある。

(委員長) A 評価は高すぎるのではないか。

(委員) これだけの人数が受験しているのはすごいと思う。しかし、採用した人をどう使うかという点も課題である。

(委員長) B 評価で良いか。

(各委員) 了承

閉 会